

活動名	スノーシュー体験 (野外活動)	
ねらい	○ 大自然の中、スノーシュー(西洋かんじき)に慣れ親しむことで、新雪を踏みしめる感触を確かめながら雪国の冬の自然を味わう。	
条件	<p>場所 ①敷地内 ②植物園 ③グラウンドゴルフ場・旭川ダム公園 (※旭川ダム公園コースについては、「登山・ハイキング」のページを参照のこと)</p> <p>対象 小学校中学年以上</p> <p>時期 冬季</p>	<p>時間 ①30分～60分 ②60分～90分 ③90分～120分</p> <p>当日の天候、現場の状況、団体の人数等に応じて時間は変動します。</p> <p>人数 40～60名程度(※要相談)</p> <p>天候 積雪時</p>
提出物	書類 用具貸出票	
準備物	<p>貸出 □スノーシュー □ストック □無線機(引率者用) □拡声器 (単3電池6本持参のこと) □ハンドホイッスル (単4電池2本持参のこと)</p>	<p>団体準備 □冬用防寒具上下、スキーウエア等 □手袋 □帽子 (個人準備) □長靴(ブーツ不可) □タオル □着替え □電池(拡声器、ハンドホイッスル用)</p>
展開	<p>事前(1週間前～当日)</p> <p>①コースを決定し、下見を確実に行う。ルート、危険箇所、緊急車両待機場所、所要時間、疲労度等を確認し、団体の引率者間で情報を共有する。 ②引率者間の役割分担と、参加者への事前指導を行う。 ③参加者の健康観察に留意し、体調を把握する。 ④当日の実施の可否はまんたらめ職員と相談の上決定する。(現地情報、天候等を考慮) ⑤まんたらめに到着後、貸出物品を受け取る。</p> <hr/> <p>活動</p> <p>①準備運動をする。(※①②は順不同) ②トイレを済ませ、スキーウエア、手袋、帽子等の身支度を調える。 ③長靴にスノーシューをセットし、ストックをもつ。(※③④は順不同) ④スノーシューの構造を伝え、使用方法を指導する。 ⑤目的地を確認し、先頭から順に隊列を組んで進む。(広い雪原を自由に歩き回る。) ※事故等、緊急事態の場合は、直ちにまんたらめ事務室に無線連絡を行う。</p> <hr/> <p>事後</p> <p>①まんたらめ到着後、事務室に貸出物品を返却する。 ②汗の始末を行い、風邪を引かないように着替えをする。</p>	
安全管理	<p>□引率者は1人ずつ無線機を持ち、出発時から到着まで電源を入れた状態にする。 □引率者をバランスよく配置(先頭・中央・後方等)し、グループを観察しながら同行する。 □車道を渡る際、必ず安全確認をする。 □単独行動は絶対しないことを確認する。 □危険生物に遭遇しないように、ハンドホイッスルを鳴らして歩く等、対応について共通理解を図る。 □引率者は、説明、誘導、巡視、緊急車両、救護等の役割分担を事前に決めておく。 □怪我や体調不良で動けない者が出た場合は、団体の緊急車両で搬送する。 (必要に応じて、救急車要請、医療機関と連絡 まんたらめ事務室にも連絡)</p>	

スノーシュー体験の様子



準備運動後、トイレを済ませ、身支度を調える



スノーシュー(大)置場(※玄関の風除室に40足)



スノーシュー(小)置場(※玄関に40足)



ストック置場(※玄関の風除室に60組)



長靴にスノーシューをセットする様子



スノーシューの構造の説明



スノーシュー装着後の様子



スノーシュー・ストックの使用法の指導



隊列を組み、みんなでペースを合わせる様子



広い雪原で、新雪の感触を味わう様子